

【調査者】 久保義孝 西山博大 秋田修一 磯部裕子 松隈紀文

【調査日程】 令和2年2月3日～令和2年2月4日

視察1 多世代交流複合施設 (アンダンチ「あなたのお家」)

宮城県仙台市で株式会社未来企画が運営している多世代交流複合施設を視察。アンダンチでは、子どもも若者も、高齢者も医療や介護が必要な人もそうでない人も、また、障がいのある人もない人も、誰もが気軽に集まり、自分の役割を持ちながら、豊かに暮らしている。「つながり、育む これからの暮らし」をテーマに、サービス付き高齢者向け住宅、看護小規模多機能型居宅介護事業所、和食レストラン、企業主導型保育園、障害者就労支援B型事業所など、衣食住と学びの多世代交流複合施設が互いに支え合いながら運営されている。アンダンチのコンセプトや運営方法は、特に現市民病院跡地利用に有効活用したい。



視察2 ICT教育とプログラミング教育

先進校の小金井市立前原小学校を視察。タブレットPCの導入に際しては、動作環境が優れた機器を採用するなど、環境整備が重要であること、授業力向上のための研修も必要であることがわかる。5年生の授業では、プログラミング専用キット「IchigoJam (イチゴジャム)」でドローンにプログラミングをし、思い描いた飛行をさせていた。また、授業のねらいと振り返りはタブレットPCで管理・共有していた。これからの授業はICTの活用により大きく変化する。本日も環境整備を進め、より効果的な授業ができるよう、視察で得られた情報を関係部署と共有し、ICT教育の推進にこの経験を活かしたい。



プログラミングキット

令和2年度 川西市予算編成に対する川西まほろば会としての要望事項

市民の方々からのご意見を伺い、各種団体との協議を重ねることを通じて、多様化する住民ニーズに的確に応えるよう努めました。



健康で安心して暮らせる安全なまちづくり

- 1 川西市行方不明者SOSネットワークの充実と適正な運用
- 2 高齢者の在宅療養を可能にする環境づくり
- 3 健康なまちづくり・予防医療施設や早期発見治療の充実
- 4 北部の医療体制の充実
- 5 国土強靱化地域計画の早期策定
- 6 猪名川を含めた大小河川の治水対策の強化
- 7 大規模団地の再生と空き家空き地対策
- 8 消防施設の適正な配置

地域包括ケアシステムにおける在宅医療に係る専門職のかかり方を検討。
【注目事業】 現市立川西病院跡地の活用による訪問介護の環境整備

【注目事業】 中学2年生へのピロリ菌検査の実施、除菌・ロタウィルス感染症の予防接種の実施

空き家の流通促進に向けた空き家マッチング制度を導入。
【注目事業】 民間留守家庭児童育成クラブ(新規開所)への支援

JETプログラムによるALTを全小中学校に1名ずつ配置。
【注目事業】 小学校5・6年生、および中学校1年生の児童生徒へのタブレットパソコンの配備

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携し、児童生徒・保護者に寄り添った指導をする。
【注目事業】 スクールソーシャルワーカーの拡充(各中学校区に1名配備)・適応教室(セオリア)指導員の拡充

心理士6名、言語聴覚士2名が対象者と保護者に対し、教育相談を実施し発達の状況や課題の確認と支援をする。
【注目事業】 5歳児発達相談事業(5歳ニコニコ相談やアンケートなど)

仮想空間の映像体験ができるVRや、遺跡現地で現実世界にCGなどのデジタル情報を映しだすARといったICTの活用を検討する。

県や近隣市町と調整を図りつつ、自転車を活かしたまちづくりについて、自転車関連のイベントと健康マイレージ事業との連携を検討する。

移動手段の多様性を考慮した地域内交通の検討をする。
【注目事業】 オンデマンドモビリティサービスの実証実験・シェアサイクルの試験的導入

※1: JETプログラムとは、外国青年を招いて地方自治体等で任用し、外国語教育の充実と地域の国際交流の推進を図る事業
※2: アクセシビリティとは、移動手段の利便性のこと
※3: ゼロ次予防とは、何かに取りまなくても、自然と健康寿命が延び、長生きできるまちづくりのこと。

次代を担う子ども達の教育環境等の充実

- 9 市内全域の通学路の安全及び危険個所の整備
- 10 子ども医療費助成制度の拡充(義務教育終了まで)
- 11 児童・生徒の放課後における居場所づくり
- 12 国際意識の醸成とJETプログラム※1によるALTの拡充
- 13 ICT教育の早期環境整備
- 14 いじめ・不登校・引きこもりなどのケアサポートの充実
- 15 子どもの成長に応じた発達状況や課題の確認と支援
- 16 学校のバリアフリー化の推進
- 17 保育士の増員
- 18 学校完全空調化に伴う授業日数の確保に対する取り組み

川西市の特徴を踏まえたまちづくりのあり方

- 19 日本一の里山と称される黒川の自然を活かしたまちづくり
- 20 文化遺産とARなどのICTを活用したまちづくり
- 21 環境・観光・健康に配慮した自転車を活かしたまちづくり
- 22 市民ニーズに即したアクセシビリティ※2の向上
- 23 社会参加の核となる公共施設や拠点のあり方
- 24 ゼロ次予防※3が可能なまちづくり

川西市議会 保守系会派

川西まほろば会

所属議員紹介

幹事長
にしやま ひろとも
西山 博大
5期目

- 厚生文教常任委員会
- 市立病院整備調査特別委員会
- 昭和32年 洲本市生まれ 大和在住
- 東谷小学校 東谷中学校 緑台高校
- 大阪学院大学経済学部卒業
- 大和地区福祉委員会監事 大和自治会顧問

まつくま のりふみ
松隈 紀文
1期目

- 建設公企常任委員会 副委員長
- 中心市街地・新名神周辺整備調査特別委員会 広報委員会
- 昭和46年 南花屋敷生まれ 清和台在住
- 加茂幼稚園 清和台南小学校 清和台中学校 猪名川高校 大阪工業大学工学部卒業
- 土地家屋調査士松隈紀文事務所 所長
- 人権擁護委員(2016.7~2019.9)
- 川西市子ども会連絡協議会副会長
- 川西市消防団平野部

いそべ ゆうこ
磯部 裕子
1期目

- 厚生文教常任委員会
- 飛行場対策周辺整備調査特別委員会
- 昭和40年 大阪市生まれ けやき坂在住
- 関西外国語短期大学卒業 関西学院大学 専門職大学院経営戦略研究科 HCLコース履修
- 元 全日本空輸株式会社(ANA) グランドスタッフ
- (株)ピー・プランニング人財育成部門代表
- 川西市教育委員(2012.10~2018.7)
- 元 川西市参画と協働のまちづくり推進会議委員

議長
あきた しゅういち
秋田 修一
3期目

- 総務生活常任委員会
- 飛行場対策周辺整備調査特別委員会
- 昭和37年 奈良市生まれ 小花生在住
- 川西小学校 川西中学校 川西明峰高校
- 大阪産業大学経営学部卒業
- (株)桂商店 代表取締役 ローションオーナー 4店舗経営
- シャント川西自治会会長
- スポーツクラブ21川西やなぎクラブ代表 等

くぼ よしたか
久保 義孝
8期目

- 議会運営委員会 副委員長
- 建設公企常任委員会
- 中心市街地・新名神周辺整備調査特別委員会
- 昭和21年 一庫生まれ 丸山台在住
- 東谷小学校 東谷中学校 伊丹高校
- 大阪商業大学経営学部卒業
- 川西少年軟式野球連盟会長
- 伊丹川西猪名川食品衛生協会 前会長 等

お問い合わせ

川西まほろば会 議員控室

〒666-0016 兵庫県川西市中央町12-1 川西市役所6階
e-mail: k.mahoroba@ipalette.jp URL: http://kawanishimahoroba.jimdo.com/

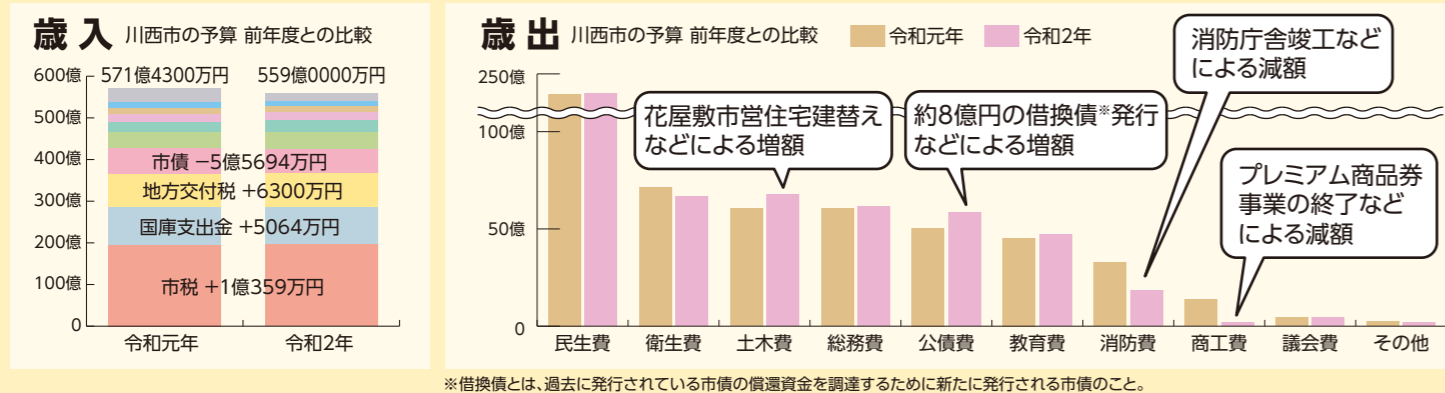
TEL:072-740-1305



川西まほろば会では、新型コロナウイルス感染症に伴う、国・県・川西市の助成金・給付金等の情報をまとめた号外を発行します。

第2次川西市総合戦略 ~「何気ない日常に幸せを感じるまちの実現」をめざして~

- 戦略1** ~子育て世帯にとって魅力的なまちを目指して~
子どもたちの成長を支えあえるまちづくり
- 戦略2** ~自分に合った居場所や活動ができる環境を整える~
誰もが力を活かせるまちづくり
- 戦略3** ~すべての市民が安心して暮らせる~
安全で安心して暮らせるまちづくり
- 戦略4** ~住み続けたい帰ってきたいと思えるまちをめざして~
愛着もてるまちづくり



総括質問 会派幹事長による市長の施政方針や予算編成方針に対して行う質問

令和2年3月
質問者 西山博大(幹事長)

大和地区におけるオンデマンドモビリティサービスの実証実験について

Q これまでの住民の意見をどのように受け止めているのか?
A みんなの交通検討会には毎回100名を超える皆様にご参加いただき、期待と共に、「バスがなくなるのか」「オンデマンドモビリティサービスがわかりにくい」など、ご心配の声も頂戴しました。今後、実験を行う背景や目的への理解を求めつつ、現在のバスの運行を間引くのではなく、並行して実証実験を行う方向性で検討して参りたいと考えております。

当初予算では、実証実験にかかる費用についての計上はなく、調査費の約2,000万円(全額が国の補助金)のみ計上されていた。そこで、一般会計予算審査特別委員会における3時間半におよぶ質疑の結果、市長から実証実験にかかる費用の補正予算が議会に承認されたのちに、調査費の2,000万円を執行するとの説明があった。

川西まほろば会は継続的に取り組んでいます

議員定数の削減について
議員報酬を一人当たり換算した金額を他市と比較するなど検討した結果、定数を26名から24名に減らすよう、次の選挙までに努めます。また、議員定数が削減されても、議会の機能が維持・向上できるよう努めています。

川西行方不明者SOSネットワークを充実させよう!
認知症行方不明者の捜索情報を、協力者へ24時間365日メールで配信。「協力者の登録」はひょうご防災ネット内の川西行方不明者SOSネット「かんたん登録」から。川西市では、地域支援体制の充実のため「みまもり登録」の案内や「靴ステッカー」の配布、認知症サポーターの養成など普及・啓発活動を展開中。「みまもり登録」は各地区の地域包括支援センターで。

お問い合わせ 川西市中央地域包括支援センター
川西市役所1F 介護保険課内
TEL 072-755-7581

現市立川西病院跡地の有効な活用方法について

Q 仙台市にある民間企業が運営する複合施設「アングランチ」のように、本市独自の特徴ある魅力的な多世代が交流できる複合施設を整備することについての考えは?
A タウンミーティングにおいても、子どもからお年寄りまでが共用できるスペースを希望するなど、様々なご意見をいただいています。現在、特別養護老人ホームを柱とし、在宅医療や在宅介護が可能となる訪問介護が充実した施設、さらには、障がい者との共生型の複合施設の誘致を提案しています。今後、どのような機能を合わせ持つことが必要か検討して参りたいと思います。

その他にもこんな総括質問をしました

- ・「空き家マッチング制度」の導入について
- ・コワーキングスペースの運営支援について
- ・中心市街地における空き店舗等への新規出店に対する補助制度について
- ・「黒川のまちづくり方針」の策定と規制緩和などについて
- ・生活困窮者自立支援への取り組みについて
- ・ごみの排出方法や収集体制の見直しについて
- ・地域子育て支援拠点の設置について
- ・SNSを活用したAI窓口システムの導入について
- ・近隣市町等との地域連携について など

ヘルプマークをもっと知ってもらいたい!
見た目にはわかりにくい障害や病気を抱えている人が、そのことを周囲に知らせ、配慮や援助をしてもらいやすくなる目的で作られたマークです。ヘルプマークは、市役所・各公民館・大和行政センター・保健センター・川西市社会福祉協議会で発行しています。

裏側には援助が必要な内容を書くことができます。

例えばこんな援助
・電車やバスの中で席を譲る
・困っている様子であれば声をかける
・災害時には安全な場所に移動出来るよう避難の手助けをする など

一般質問 市の一般事務に対して、執行の状況や課題、将来の方針や政策的提言を質問

川西市におけるSDGsへの取り組みを
見える化するために
令和元年12月
質問者 磯部裕子

テーマ SDGsを指標とした場合の川西市の施策の評価と情報発信のあり方について

独自の検証結果から第5次総合計画にはSDGsの17の目標に合致する施策がバランスよく網羅されていることを確認した。しかしながら、川西市が発信する情報にはSDGsに関する情報がほとんどない。

Q 市民への情報発信の方法として、民間企業との連携も有効と考えるが?



ごみを出す人、収集する人、処理やリサイクルをする人に、よりストレスフリーで安全な環境をつくりだすために

テーマ 正しくわかりやすいごみの取り扱いについて

なぜ、燃えるごみは40cmまでの大きさなのか、なぜ、ガスボンベは穴を開けなくても良くなったのか、なぜ、汚れたプラスチックは燃えるゴミなのか、なぜ、廃油は固めるか紙に吸わせて出さないといけないのか、ごみの収集や処理施設のこと、リサイクルの工程など、ごみを出した後のことがわかれば、ごみの出し方や分別の仕方がもっとわかりやすく簡単になる。さらには、収集する人の安全や処理施設で働く人の労働環境の改善にもつながる。

Q ごみの出し方や分別に関して「なぜ?」ということに対する情報提供はできないか?

A 今までは、ごみの冊子で出し方や分別の方法、ごみ行政誌「R(あ〜)かわにし」ではごみの減量化などの情報提供をしていたが、市民の方からよくある質問も踏まえながら、ホームページでのより詳しい情報提供や、「R(あ〜)かわにし」で特集を組み、より細かな情報提供をしていきたい。

「ごみのなんで?」はホームページにも掲載されました。



川西インター付近を中心としたまちづくりをもっと積極的に

テーマ 川西の自転車を活かしたまちづくりについて

川西インター線が完成し2年ほど経過しましたが、付近には特に変化が見受けられません。川西インター付近を中心としたまちづくりにも積極的に取り組んでいただきたく、今回は自転車を活かしたまちづくりを提案しました。自転車のまち川西とするためには、まずは市民が安全に安心して自転車を利用するための自転車道整備計画「自転車ネットワーク計画」をしっかりと実行する必要があります。安全に安心して自転車を利用できることにより自転車運動を健康施策として市民への普及につなげていけると考えます。そして川西インターを拠点として、自転車からはじまる観光施策により交流人口を増やす戦略を進めて欲しいと思います。交流人口が増えることにより自然とお店のにぎわいも増え、川西市に興味を持って移住される方も出てくると考えます。全国と繋がる玄関口の川西インター付近を活かしたまちづくりのアイデアを、これからも提案していきたいと思います。



SDGs(エスディーゼズ)とは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年に国連サミットで決められた国際社会共通の目標。17の目標を15年間で達成することで、「全世界全ての人たちが”持続的に”人らしく生きる”ことを目指している。



キセラにゲンジボタルを!
清和源氏発祥の地、川西市らしい魅力あるまちづくりの一環として、キセラ川西のせせらぎ公園内を流れる水路の清掃を活動に賛同くださる市民の方々と共に進めています。水路には少ない数ですが、既にゲンジボタルのエサになるカワニナの生息が確認できています。ヘドロや藻が川底や岩に着いてしまうと、カワニナははじめ水生生物が生息できなくなるので、時折、きれいにしています。清流の代名詞でもあるホテルを、キセラで見ることができるようになれば嬉しいです。

